令和７年度第２回広島県かきへい死に関する有識者会議の概要について

日　時：令和８年３月 25 日（水）　10 時 30 分～14 時 30 分（途中１時間休憩）
場　所：広島海区漁業調整委員会委員室（広島県庁本館４階）
（広島市中区基町 10 番 52 号）
形　式：対面・非公開（冒頭のみ公開）
出席者：有識者委員６名ほか、広島県水産課及び水産海洋技術センター、広島市水産振興センターなど計 20 名

＜会議の概要＞

１　かきへい死、成育、出荷状況に関する現状の共有について

県から、現在はかきの新たなへい死は見られず、生き残ったかきの身入りは回復傾向にある一方、これまでに発生したへい死の影響で平年よりも出荷量が伸び悩んでいる地域や生産者が依然として多い状況を報告した。

また、県から、令和８年２～３月にかけて県内全域のかき生産者 72 名に実施したヒアリング調査速報を報告し、へい死は９月中旬頃から始まり 10 月上旬がピークだったこと、その直前にはかきが成熟状態であったこと、沖合域が沿岸域よりもへい死率が高く、沖合域では垂下深度に偏りなくへい死し、沿岸域では下層でへい死率が高かったこと、養殖期間の短いものほどへい死率が低いことなど、特に生産者情報の共通項について有識者に共有しながら議論した。

２　かきへい死の原因究明に関する進捗報告について

有識者委員などから、かきの産卵とへい死の関係、組織学及び細菌学的分析、赤潮発生状況、植物プランクトン発生状況に関する報告を受け、かきのへい死との関係について議論した。

へい死の要因として、疾病や赤潮による可能性を否定する根拠が十分出そろったこと、へい死した時期のかきは成熟状態にありストレス耐性が低下していたことから、ある特定の要因ではなく、高水温・高塩分・貧酸素・餌不足・産卵期の長期化による複合ストレスによって引き起こされたと考えることが妥当であるとの見解で一致した。

ただし、高水温期におけるかきの増重は、へい死リスクを高めることが報告されていることから、今回のへい死について餌不足を直接的なへい死要因と位置付けず、環境ストレスの一つとして捉えることが適当との助言を受けた。

また、有識者委員から、令和８年５月にへい死原因分析の暫定意見を取りまとめるに当たり、環境ストレスを把握するためのモニタリング強化や、へい死リスク回避のために生産者が取り得る対策をセットにして発表することが重要との提案を受けた。

３　来期の生産に向けた漁場環境モニタリング強化及びへい死対策の検討について

県から、令和８年度のかき関連事業として、漁場環境のモニタリング強化、生産現場で取り組む対策実証支援事業、研究機関による海洋環境とへい死リスクの関係把握調査、種苗育成管理技術の現場実証試験について説明し、出席者から助言を受けた。

有識者委員からは、漁場環境のモニタリング結果を生産者が自身のスマートフォンでリアルタイムに確認できることの重要性が示され、新たに強化するモニタリング項目や内容について議論し、大学や研究機関との調査連携について提案を受けた。

４　次回（５月）会議に向けた検討事項について

今回共有した情報を持ち帰り、県と各専門分野の委員で連携して対策を含めた検討をさらに進め、５月中下旬を目途に開催する第３回会議に持ち寄ることを確認した。

５　その他

特になし。